

「家がいいね」 第28号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2006.9.4

人の出会いは季節のようなもの
のだこの言葉を目にしました。
無理に関係を作ろう、維持しようと思わなくても、通り過ぎ、また出会うことも自然の中にあると思っても好いんですね。



「プチ病人」としての体験記

子供から夏風邪をもらい、思うようにならない身体経験をしました。発熱前の寒気から身体感覚が狂い始める。炎天下に出ても鳥肌が立つ。汗が出て、熱があるやら無いやらトンと自覚なし。それで体温計を神経質なほど確認。薬を飲んで寝る時間は細切れで辛い。咳き込みで、とんでもない時間に目が冴える。四肢は痛く口の中は苦味でイッパイ。これが自分の身体という自然感が戻るには1週間を要した。それでも「ネツは醒めたがセキは残る（熟年離婚を待つ夫婦というギャグ）」状態なのです。体験しないと分からないかな？

私の子はどう育つでしょうか 2

以前から列車に乗ると、自由であるはずの座席の取り方で気が付いたことです。二人がけ・四人がけのボックスシートが、一人でふさがれて居ます。隣に座られないための防衛が空席に荷物を置く人、知らぬ他人と二人一緒になるのを嫌うのか、立ったまま選ぶ人、が殆どです。歳を感じる私は座りたいため「空いていますか」と聞きますが、返事も無く荷物も間に置かれた窮屈な姿勢になった事もありました。わが子に「お前だったら、どうするの」と聞きました。「荷物は膝に置くよ」と即答。そのまま育つてと願うばかりです。

河合隼雄さんの快癒を願って

8月17日に自宅で、脳梗塞の発作を起こされ、いまだ意識が戻らないと報道されています。文化庁長官という公職が命を削るように感じてい



河合隼雄（かわい・はやお）
1928年生まれ。京都大学教授などを経て、
2002年1月から現職。専攻は臨床心理学。

ただけに、快癒され一人の立場に戻られる事を、心より願います。「二ころの処方箋」や緩和ケアに関わったりすると、河合先生がそっと置いてくれた足場の石に気付く事が多いものです。
希望を失わないでボーっとして待ってれば、向こうがそのうち自分から変わるんです。（中略）
そうそう、希望といえば、これは駄洒落ですが、新幹線の切符を買おうとしたら『のぞみ』はありませんが『ひかり』ならあります」なんて言われることあるでしょ。僕は窓口でそれ言われて感激してね。思わず「望みはないけど、光がある！」と大声で繰り返してしまっただけです。そしたら駅員さんが「あっ『こだま』が帰ってきた」（笑）それ以来、僕はつらいことがあっても「そうや、望みはなくても光はあるんや」と思うようになっています（笑）。
「無為の力」 谷川浩司 共著より

絵本ワールドみえのご紹介

9月23日（祝）24日

津市・三重県総合文化センター

絵本ワールドは無料

◆柳田邦男氏 講演会

23日（13時〜15時）

「心に響きあう絵本の世界」今、おとなこそ絵本を〜 会場：男女共同参画センター

参加費：2,000円（講演会・シンポジウム）

◆シンポジウム（15時半〜17時半）

「つなごう・ひろげよう絵本・子ども・大人」

シンポジスト：柳田邦男・橋村孝子・林千智

問合わせ先 宮川書店 0596・22・4317

休日ですが出張します

9月10日（日）午後 新大阪にて

在宅ホスピスケア実践シンポジウム

「若い人のがん療養をどうするか」で発言予定



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>

